

幼兒保護事業（二）

日暮期講習會に於ける筆記大要

内務省嘱託 小澤

（三）児童死亡率低減の條件

一 健康狀態、氣候、習慣及び工業は大に西歐羅巴に於ける普通の狀態と異なる。故に嬰兒及び児童死亡の問題も稍々その性質を異にする。最近迄米國の人には大部分地方的であつた。然し都市及工業中心地の發達及び賃金生活者階級の増加に依つて新たな状態が發展した。是等の状態に依り児童死亡の上に種々な問題が考察される。

都部對都市児童死亡の比較 幼兒死亡率に於ての第一の特徴たる相異は都部と都市の死亡率の差異である。此の相異は必然的に固有のものではないが、或る時代の間は、斯る傾向を免れぬ。米國都市の發達は極めて急劇で人口一萬以上の都市が今や米國全人口の八分の三以上を占む。從つて児童の數が間断なく増加し是が都市の健康状態に取つて問題となつ

た。都會生活は極めて重大な殆んど打勝ち難い幾多の不便に依つて悩まされる。そうして是等の理由の爲に都市の死亡率は絶望に見えた。都會に來る児童は人口過剩に依つて苦まねばならぬ。煤煙や塵芥が絶えず都會の上を覆ひ空氣を汚す。

そうして無數な有害原因が永久に人間の生命を破壊せんとする。児童も亦明るさ及び日光の不充分なる爲め苦しむのであるが、新鮮な空氣の缺乏が恐らく都市の主要な缺點である。自然の治療力が健得到有效なることは周知の事であるが、都市の児童に對してはこれが充分供給されぬ。

疾病傳染の危険は都部よりも都市が極めて大である。交通遮斷及び隔離方法を以てその差異を除き得ない。數百の児童が都市の學校に集合し、疾病は児童の間に容易に傳播する。都市は病菌に潜伏の好機を與へ、汚穢や貧窮が直ぐ様病氣の犠牲を作る。

合衆國の統計に依ればデフテリア、猩紅熱、天然痘及下痢疾患等の児童病は都市の方が他よりも極めて多い。都市の児童が蒙る他の損失は食料が輸入供給に頼つて居ることで、是が健康の低下を來す。殊に牛乳がそうであつて、その結果或る種の下痢疾患が直接原因となり年々數千の児童が死亡する。種々の傳染疾患は時々牛乳供給がこれを傳染せしめる。そして果實、野菜、鶏卵及肉類も市内の消費者の手に入る迄に往々一部は品質を害ふ。都市の悪水は數千の人に対する危険の原因である。故に都會生活は次の如き三つの主要な點に於て田舎生活に劣る。第一都市に於ては新鮮の空氣、日光及健全な戸外生活が不充分である。第二、傳染病は普通で防止が容易でない。第三、都市にて消費される飲食物は比較的有害である。

都市と田舎との統計的相異が次の米國に於ける死亡表により簡単に示される。左表は特殊の疾病に對し都市と田舎と比較して人口千萬に對する死亡の割合を示す。

臍記地域に於ける死亡率(人口十萬
に對し)(一九一二)

	疾	病	疹	臍記都市	臍記州の郡部
麻					
猩	百	日	一〇・二	九・七	
紅	咳	一一・二			
熱			一一・八		
	百	日	一〇・九		
	咳			六・〇	
チ	百	日	一一・二		
フ	咳				
テ	猩				
リ	紅				
ヤ	熱				
及					
義膜性喉炎	二一・九				
下痢疾患(二歳以下)	二五・一				
先天的虛弱及畸形	五五・八				
先天的虛弱及畸形	九五・三				
先天的虛弱及畸形	八五・二				
先天的虛弱及畸形	七一・七				

上の統計は國勢調査局の調査であつて年齢別になつて居ない。従つて主なる児童疾患を選み死亡率を比較する。百日咳及麻疹を除いては、田舎と都市の比例の間に大なる相異があることが明かである。都市は下痢疾患に於ては七五パーセント高く猩紅熱では殆んど九〇パーセントと高く、デフテリアでは四五パーセント又先天的虛弱では一九パーセント高い。是等の事實は明かに田舎の児童は疾病から免かるゝことに於て都市の児童よりも大なる便宜をなす事が明かである。加之児童疾病に因る死

亡率の最も低いのは大部分田舎である州の報告である。且つ歐洲の統計が是等の結論を確實にする。

白人と黒人社會的狀態等

黒人と白人の子供の死亡率には著しい相異がある。此の差異は極めて大なるもので、是が黒人種に取つて至極重大な問題である。一九〇〇年の米國聯邦統計は黒人児童の死亡は白人の倍であり、都市に於て五歳以下の児童の八分の三は規則正しく死せることを示した。然し田舎に於ては其割合は三分の一低く東歐の白人の間の死亡率より少い。一九一一年の統計は黒人の一般死亡率は千人に對し一二三・七に下つたが尙ほ白人よりも七三・一セント高い。黒人児童の過度な死亡率の内可成大なる部分は彼等の生活する不幸な且つ陰鬱な家庭と兩親の無智に原因することは明かである。

社會的立産業的狀態の良否による相異については勿論貧困が有力な要素であるが、この相異は大體児童に對する賢い看護と放任との違による。貧民地域及工場中心地の幼兒死亡率は都市の他の部分に於けるよりも殆んど不變的に大きい。著しい例外としては猶太人の子供は貧民窟や殆んど堪へ得ない状態の

生活にも拘らずその死亡率は低い。

工業都市は児童生活に有害な状態を作り勝ちである。多數の結婚婦人が傭使せられ、是が彼等が児童に用ひ得る注意の程度に大に影響する。

新英國の大工場都市は其の著しい例である。多くの外人が製造場に入つた。婦人が多數工場に使用され、從つて多くの子供が放任される。マサチューセツに於ける工業中心地即ちボール、リバーの如く長屋が普通である處の幼兒死亡は住宅都市の二倍以上である。混合状態の都市は釣合つた死亡率を示す。貧民窟の惨状は周知の事であり、都市の貧民地域は環境のため過多の幼兒死亡に苦しめらる。勞働階級は給料生活者及職業階級よりも多く高率な幼兒死亡によりて悩まされる。富者階級に幼兒死亡率の低い主な原因是その児童に對し正しい方法で看護することが大に可能な爲めである。且つ環境の状態は凡て優れて居る。

住居良く、食物は適當し、醫師は常に得られ、周到な注意がなされ、且つ疾病に對しては有效に治療し得る。人々の知識が進み無學者が割合少ない處では幼兒の豫防し得らるゝ疾病を速かに取繰り得るや

うになりつゝある。

私生兒は莫大な死亡率を示す。これは通常公生兒死亡率の約二倍である。此の相異は一部は多くの父の無い赤子が劣つた施設に於て保護さるゝ事と一部は母の無智若くは放任並嬰兒の扶養上通常僅かの保護をしか有せぬ事實に基因する。

死亡幼兒の著しい割合が出生後三ヶ月以内で死す例之、一九〇九年英國で幼兒死亡の五五・一パーセントは此の時期に起つた。生後一ヶ月内の死亡は明かに生後一ヶ月間に於ける爾餘の期間内に於ける死亡の八倍である。更に驚くべき事は英國の統計は產兒の二・四パーセントは生後一週間内に死す事を示す。一歳以内の死亡の殆んど一〇パーセントは第一日に起る。約言すれば幼兒死亡は第一週中が甚高率で、三ヶ月迄は依然高いが爾後月々次第に低下す。然し歐米の或る都市では第一年の終りに向つて再び死亡率が高まる。是は赤子をして乳を離し、牛乳又は他の人工食料の使用が増加する爲である。女兒百人に對し男子約百六人が生れる。此の超過に對し男性乳兒の死亡率が高く、五ヶ月の間繼續する事によつて差引となる。女子の抵抗力は男子よりも稍々大なるや

うに考へられるが然しその理由は充分明かでない。幼兒死亡の低減、此問題の主要さは幼兒死亡の實狀と防止可能の程度との相異に依りて測られる。幼兒死亡の低減には一つの限界がある。若しこれ以下に低減すれば其結果は兒童期を通じ死亡率が増加するか若くは體格薄弱の爲め若死する男女成年者を多くする許りである。幼兒死亡率は全死亡の内で断へず低減しつゝある是は以前よりも多くの幼兒が救はれそうしてこれに比して成年者の成績が劣るからである。現在の問題は幼兒の死亡を文化の力で出來得る最低限度に減することである。合理的な病牀保護はまだ現今到達し得る處からは遙かに遠い距離がある。然し或る地域で兒童に對し特別の注意の行はれた經驗の結果は幼兒死亡を著しく低減した。合衆國に於ける變化を示す爲め次に統計を示す。

年齢別に依る兒童死亡率

地 域 及 年 齡	各年齢につき千に對する比	
	一 九 一 一	一 九 〇 〇
一 九 〇 〇 年 に 於 ける 勝 記	一一一	一一一
地 域 の 各 州	一一一	一一一
一 歲 以 下	一一一	一一一
二 二 五 · 五	一一一	一一一
一 六 一 · 九	一一一	一一一
三 三 三	一一一	一一一

都		市		年齢別に依る人工手に對する死亡率
一歳以下	一九	一歳以下	一九〇〇	
二三九・五	二三九・五	二〇三・〇	一九七・〇	四七・〇
一六〇・〇	一三〇・〇	一四一・九	一四・四	六〇・六
一六・〇	一六・九	一八・八	一八・八	六一・五
三九・五	四七・六	三四・五	三〇・七	四五・三
一四六・六	一九四・一	二一	二一	四二・〇
一六	一七	三〇	三〇	一八九・四
一六	三一	三四	三四	二〇一・九

一歳以下	一二二・九	三二・一	二・二	三・二	三六・六	一二・八	一九・八
一歳以下	一一一・八	三二・一	二・二	三・二	三・二	四九・九	四九・九
五歳以下	一一一・八	二・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二
五歳以下	五乃至十四歳						
地域の各州	一九一年に於ける勝記						

一九〇〇年以降一貫せる進歩が行はれた。十二年間繼續的記錄の比較し得る處では幼児死亡率に於て殆んど四分の一を減じ、五歳以下の死亡は一層急速に減じた。年長兒童に於ても亦著しき進歩をなした。概括的に言へば是等の州の兒童の約八分の一は一歳以下で死す。斯くして著しき生命の救助が成就された。是等の州では概して各都市の間に大なる相異あることは次表の如くである。

各 國	出產千に對する一歳以下死亡の比	
	年	率
英 蘭、威 爾斯	一九〇九	一〇九
新 南 威 爾	一九〇九	九二
普 魯	一九〇八	七四
亞 典 抹 斯	一九〇八	二三
	一六四	八五
	一九〇九	一九〇九
	一九〇八	一九〇八
	一九〇九	一九〇九

各 國	五歳以下の幼児千に對する五歳以下の死亡	
	年	率
英 蘭、威 爾斯	一九〇〇一—一九〇二	五三・五二
新 南 威 爾	一九〇〇一—一九〇二	三七・二二
普 魯	一九〇〇一—一九〇二	三二・五二
亞 典 抹 斯	一八九九一—一九〇一	三八・三一
	一八九九一—一九〇一	三七・四八
	一八九九一—一九〇一	七三・九五

斯る相異の原因の内には確かに氣候より受くる自然の便宜もある。西部及北西部の都市の多くは低率で、それが良氣候と細民人口の少なきことに因る。十年間に殆ど凡て大都市に幼児死亡率の著しき低減を來した。此の改良は是等の都市が幼児死亡低減問題に對して奮闘した努力に因る。或る意味で凡ての幼児の死亡の大なる割合は理論上豫防し得べきである。一歳乃至五歳の兒童死亡の少くも半數は豫防し

た。此の改良は是等の都市が幼児死亡低減問題に對して奮闘した努力に因る。或る意味で凡ての幼児の死亡の大なる割合は理論上豫防し得べきである。一歳乃至五歳の兒童死亡の少くも半數は豫防し

得る。是等の兒童は體格の薄弱なる爲め生命を破壊するの年齢を通過したのであつて、彼等の死は大抵何れかの状態で社會が彼等を放任して居た事の證據である。これは實に現今の大なる兒童問題の一つを形作るものである。

其の他外國の幼児死亡

外國はそれぐり嬰兒其他兒童死亡の割合に於て大に異つて居ること次表の如くである。

セ ン ト ル イ ス	一一三・八	一六〇	三八・三	一六二・四	二四
ロ ス ア ゼ ン ル ス	一〇〇・一	一一・五	三〇・一	一七五・一	四三
ミ ン ナ ボ リ	一〇六・四	九・六	三〇・〇	一〇二・〇	一四

匈 埃 西 智 露 合

牙 地 兰 西 衆

利 利 西 牙 利 亞 國

一九〇九 一九〇七 一九〇五 二〇四
一九〇七 一九〇八 一九〇六 二一二
一九〇八 一九〇九 一九〇七 二〇二
一九一九 一一九〇 一九一九 一九〇一
一九二一 一一九一 一九二一 一九〇九

二六一 三二〇 一七三 二〇四
二六一 三二〇 一七三 二〇四
一一二・九 一一二・九 二六一 二二二

一八九九一一九〇一 一九〇〇一一九〇二 一九〇〇一九〇二 一九〇〇一九〇二
一八九六一一八九八 一九〇〇 一九〇〇 一九〇〇
一九二一 一一九一 一九二一 一九一九

九一・九六 八六・七一 四七・六四
一九〇一・八六 一九〇一・八六 一九〇一・八六
一九一九 一九一九 一九一九 一九一九
三二・九 一三四・五〇 五・八六 三二・九

北西歐羅巴及ニユー、サウスウェールスに於ける
嬰兒及五歳以下の兒童の死亡率は共に合衆國に於ける
それ等よりも著しく低い。是等の諸國は凡て知識
ある人民を有し、氣候も亦適當である。死亡低減の
組織的努力、母乳獎勵運動、牛乳供給所の設置、牛
乳供給上の改良及婦人雇傭の監督等が此の結果に對
し大に效を奏した、西班牙、佛蘭西及普魯西は米國
の率を超へた。殊に佛國は嬰兒死亡につき著しき注
意を惹起する。露西亞、匈牙利及墳地利は今尙ほ一
般には嬰兒死亡が高率である東歐の状態を例證す。

若し現今社會上防止不可能の最低死亡が六%なりと
假定し得るならば無用の死亡率が驚くべき割合に達
して居る。歐羅巴の最良部に於てさへ死亡率は此標
準を超ゆること約五〇%である。

○通りがゝりに

朝はまだ早い。とある家の前で、はき掃除してゐた母らし
い一婦人が、内からの子供の聲に答へて、
「あゝ買つてあげるよ。學校の先生が買つた方がよいと言ひ
なさつたら、母さんはどんなにしても買つてあげるよ。
と。その日の生活にもどうかといふ家のふうに見うけた。
たゞホロリとせざるを得なかつた。(T子)